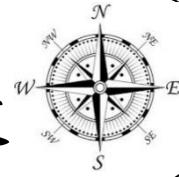


羅 金十盤



太秦中学校
進路指導部
10月4日
No.48

高校はどれくらいお金がかかるのか

高校への進学でどれくらいのお金がかかるのかについて、今まで書いてきました。

今まで当たり前のようにもらっていた教科書にお金がかかること、入学金がかかること（公立も私立も）、通学費がかかること（自転車の場合は自転車の購入費、駐輪場費用、自転車保険代なども）、いろいろと費用が必要となってきます。

そこで、国の就学支援事業や、京都府のあんしん修学支援金などで、公立も私立も授業料については、補助が出るようになっています。しかし、これらは入学した高校において申請をするので、お金が高校側に入ってくるのが夏休み以降になります。そのため、入学時に必要な費用についてはあらかじめ用意しておく必要があります。

しかし、それも大変というご家庭については、京都府の修学支援事業というものがあり、貸付（生徒の借金）としてお金を借りることができます。中学校において、12月中旬頃までに予約申請することができます。これは無利子で借りることができます。しかし、これも6月ぐらいでないとお金が手元にやってきません。

入学当初にお金が必要な場合は、「つなぎ資金」ということで、社会福祉協議会が「京都府の修学支援事業でお金を借りる」という前提で立替払をしてくれます。府からの修学支援事業のお金がおりた段階で、まずは社会福祉協議会のお金を返すこととなります。このお金は高校卒業後、3年ぐらいかけて月々生徒本人が返すこととなります。また、「つなぎ資金」の手続きについては、おうちの方とみなさんが一緒に社会福祉協議会に行って手続きをすることとなります。12月～1月ごろは大変込み合うので、早くから相談をしておく必要があります。考えておられるご家庭は早めによろしくお願ひします。

公立高校がいいのか、私立高校がいいのか、これはみなさん自身がいろいろな高校を実際に見て保護者の方と相談して決めてもらえばいいと思います。前号にも書いたように、私立高校は、放課後までしっかりと勉強を見てくれるところが多いです。別途費用がいる高校もありますが、進学補習など手厚い取り組みのある高校が多いです。公立高校は、そのような進学補習をしている高校もありますが、比較的少ないようです。しかし、自由に自分でいろいろと考えて取り組めるということがメリットだと言えます。

費用面では、塾へ行くなどを考えれば、公立へ行くのも私立へ行くのもそれほど変わらないように思われます。あとは、自分が公立高校にあっているか私立高校にあっているか、またどのような高校が自分にあっているかをしっかり考えて、高校選びをしてもらいたいと思います。

